

令和4年度輸出環境整備推進委託事業

(農林水産物・食品の輸出拡大に資する輸出環境実態調査等事業
(中南米地域))

2023年3月24日

NRI

Share the Next Values!



1. 事業概要

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態

2-1. 市場概況

2-2. (参考) 輸出上の留意点

3. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通に係る課題

4. ブラジルにおける輸出等拡大に向けた方策

4-1. 対応策の検討

4-2. Eコマースについて

5. メキシコにおける農林水産物・食品等の流通実態

5-1. 市場概況

5-2. (参考) 輸出上の留意点

6. メキシコにおける農林水産物・食品等の流通に係る課題

7. 日本企業及び中南米企業を対象とした、輸出等拡大に関するフォーラム等の開催

1. 事業概要

以下のような背景・目的の下、本事業を推進。

背景・目的

- 貴省は、農林水産物・食品の輸出額を拡大すべく、過去より様々な取り組みを進めてきた。実際、農林水産物・食品の輸出額は、2012年の約4,497億円から2018年には倍増。2021年には、1兆円を突破し、現在は、「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」に基づき、2025年までに2兆円、2030年までに5兆円という輸出額目標を設定して取り組みを進めている。
- 当該戦略で定められている輸出重点品目に係るターゲット国・地域は、香港、台湾、シンガポールなどのアジア地域や北米、欧州などが主要ターゲットとされている。
- そうしたなか、中南米地域の人口は約6億人であり、安定的で高い成長力を有する巨大な食市場であること、また、国民の大きな食格差という問題を依然抱える中で、一定の購買力を有する中間層が増加してきており、健康への関心から日本食の需要が高まりつつある。特に、ブラジル及びメキシコは、現地日系人社会の存在を背景に、多くの日本食レストランが存在するなど、日本産食品等の輸出拡大のポテンシャルは高い。
- 一方で、ブラジル及びメキシコにおける小売りも含めた食品市場の物流等の状況や食材の消費動向等、輸出実施に際しての情報は不足している。また、食品安全の観点から食品流通に係る規制強化の動きもあるものの、情報が断片化しており、輸出拡大に向けた戦略を立てにくくなっている。これらに加え、距離の遠さ、政治・経済の不安定さ等により日本企業の対ブラジル及び対メキシコ輸出は、未だ他の地域に比べ障壁が高い状況である。

本事業の実施事項

- 上記の背景認識のもと、本事業では、関心を有する日本企業等の輸出拡大に向けた検討に資する情報提供を行うことを目的として、中南米地域における食品消費動向、制度及び流通構造等に起因する輸出障壁等、及び、それらへの対応方策の提案を行う。
- 具体的には、本事業では、ブラジル、メキシコを対象国・地域として以下を実施する。
 1. 農林水産物・食品等の流通実態調査
 2. 食品流通に係る国内規制及び国境措置調査
 3. 輸出等拡大に関するフォーラムの開催

1. 事業概要

2月3日に開催したセミナーをマイルストーンとし、
各種活動のスケジュールを設計したうえで推進した。

仕様書内容（検討・実施事項）		11月		12月		1月		2月		3月		
		前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
（1）ブラジル及びメキシコにおける農林水産物・食品等の流通実態調査	①ブラジル及びメキシコにおける食品市場の実態調査	公開情報に基づく調査							●			
	②輸出条件及び輸出拡大の可能性の分析					分析、とりまとめ			●			
（2）ブラジル、メキシコにおける食品流通に係る国内規制及び国境措置調査				公開情報に基づく調査					●			
（3）日本企業及び中南米企業を対象とした、輸出等拡大に関するフォーラム等の開催		開催準備							●			
（4）報告書作成											報告書作成	

日伯食品・農業
合同セミナー開催
2月3日

1. 事業概要

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態

2-1. 市場概況

2-2. (参考) 輸出上の留意点

3. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通に係る課題

4. ブラジルにおける輸出等拡大に向けた方策

4-1. 対応策の検討

4-2. Eコマースについて

5. メキシコにおける農林水産物・食品等の流通実態

5-1. 市場概況

5-2. (参考) 輸出上の留意点

6. メキシコにおける農林水産物・食品等の流通に係る課題

7. 日本企業及び中南米企業を対象とした、輸出等拡大に関するフォーラム等の開催

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

2021年におけるブラジルの農林水産物生産量は約12億トン。
上位5品目は、さとうきび、大豆、とうもろこし、鶏卵、生乳（牛）。

2021年の主要農林水産物の生産状況（上位20品目）

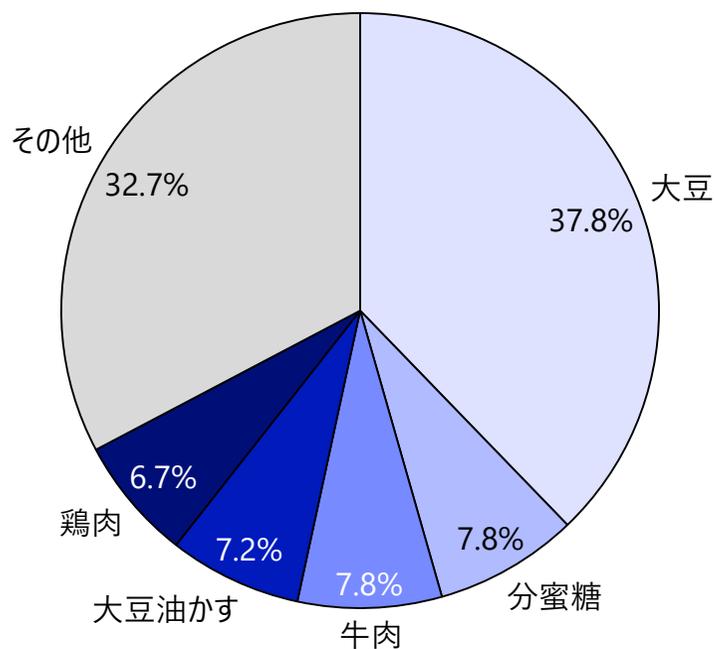
品目	生産量（百万トン）
さとうきび	716
大豆	135
とうもろこし	88
鶏卵	62
生乳（牛）	36
キャッサバ	18
オレンジ	16
鶏肉	15
米	12
牛肉	10
小麦	8
バナナ	7
コットンシード	6
豚肉	4
ジャガイモ	4
トマト	4
その他の卵	3
その他の野菜	3
コーヒー（生豆）	3
豆類（乾燥）	3
合計（上位20品目以外も含む）	1,189

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

ブラジルは農産物の輸出大国であり、大豆や分蜜糖、牛肉などを輸出している。

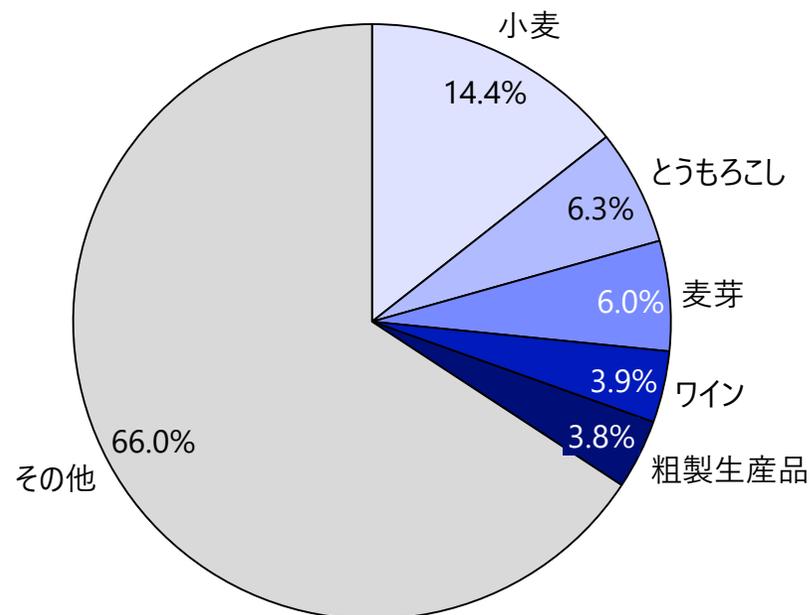
ブラジルの輸出額（上位5品目）

総額：102,201百万米ドル（2021年）



ブラジルの輸入額（上位5品目）

総額：12,831百万米ドル（2021年）



2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

日本からの輸出は、ブラジル向けでは調味料が最も多く、次いで酒類や菓子系が多い。
一方、対海外全体向けでは、鮮魚類の輸出が最も多い。

■ 対海外全体向け輸出上位10位のほとんどがプラス（2桁）成長している一方で、ブラジル向けは半数がマイナス成長。

対ブラジル（日本→ブラジル） 輸出品（食料品）輸出額上位10位

順位	項目	輸出額(千米ドル)			CAGR (2019-2021)
		2019年	2020年	2021年	
1	ソース・調味料	1,235	1,590	1,897	24%
2	サイダー、飲料 (アルコール)	1,089	715	1,385	13%
3	砂糖菓子	1,349	637	1,169	-7%
4	穀類、小麦粉、でん粉 (米スナックを含む)	1,432	1,028	1,057	-14%
5	調製食料品	943	727	982	2%
6	肉、魚の調製品	589	318	555	-3%
7	肉・冷凍(牛肉)	265	207	531	42%
8	野菜の調製品	519	309	489	-3%
9	コーヒー、茶	83	121	246	72%
10	スープ、プロス等の調製品	196	161	171	-7%

*2021年時点の順位

CAGR（Compound annual growth rate）：年平均成長率

出所）UN Comtrade

対世界（日本→海外全体） 輸出品（食料品）輸出額上位10位

順位	項目	輸出額(千米ドル)			CAGR (2019-2021)
		2019年	2020年	2021年	
1	鮮魚類	1,536,071	1,364,750	1,847,308	10%
2	調製食料品	832,347	1,207,045	1,197,088	20%
3	穀類、小麦粉、でん粉 (米スナックを含む)	718,197	803,981	896,384	12%
4	肉、魚の調製品	639,927	570,407	612,506	-2%
5	蒸留酒、リキュール	297,712	375,597	594,300	41%
6	ソース・調味料	414,975	449,842	521,398	12%
7	サイダー、飲料 (アルコール)	222,783	232,961	377,049	30%
8	スパークリングドリンク (ノンアルコール)	278,765	320,299	369,695	15%
9	果物・ナッツの調製品	228,393	212,173	290,632	13%
10	肉・冷凍(牛肉)	143,337	134,961	256,723	34%

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

成長率ベースでも対ブラジルと対海外全体輸出の傾向は異なる。ブラジル向けでは、魚と甲殻類、蒸留酒、リキュール、リキュール、コーヒー、茶などが成長率の高い品目として上位に挙がる。

■ 対ブラジル、海外全体共に酒類系の成長率が高い傾向。

対ブラジル（日本→ブラジル） 輸出品（食料品）成長率上位10位

順位	項目	輸出額(千米ドル)			CAGR (2019-2021)
		2019年	2020年	2021年	
1	魚と甲殻類	2	31	90	569%
2	蒸留酒、リキュール	27	28	117	109%
3	コーヒー、茶	83	121	246	72%
4	肉・冷凍(牛肉)	265	207	531	42%
5	海藻その他の藻類	61	66	115	38%
6	ソース・調味料	1,235	1,590	1,897	24%
7	サイダー、飲料 (アルコール)	1,089	715	1,385	13%
8	食酢及び酢酸から得た 食酢代用物	8	9	10	9%
9	調製食料品	943	727	982	2%
10	ココア及びその調製品	83	44	85	1%

対世界（日本→海外全体） 輸出品（食料品）成長率上位10位

順位	項目	輸出額(千米ドル)			CAGR (2019-2021)
		2019年	2020年	2021年	
1	ワイン	24	71	235	213%
2	スパークリングワイン	1,572	3,189	6,025	96%
3	コーヒー及び茶の濃縮物 (インスタントコーヒー等)	56,286	130,496	142,415	59%
4	乳製品、鳥卵及び 天然蜂蜜	51,289	81,732	105,457	43%
5	豚肉 (生鮮のもの及び冷蔵し又は 冷凍したもの)	8,641	15,046	17,652	43%
6	その他穀物加工品	219	397	440	42%
7	蒸留酒、リキュール	297,712	375,597	594,300	41%
8	肉・冷凍(牛肉)	143,337	134,961	256,723	34%
9	肉(生鮮又は冷蔵したもの)	128,842	135,741	232,342	34%
10	サイダー、飲料 (アルコール)	222,783	232,961	377,049	30%

CAGR (Compound annual growth rate) : 年平均成長率
出所) UN Comtrade

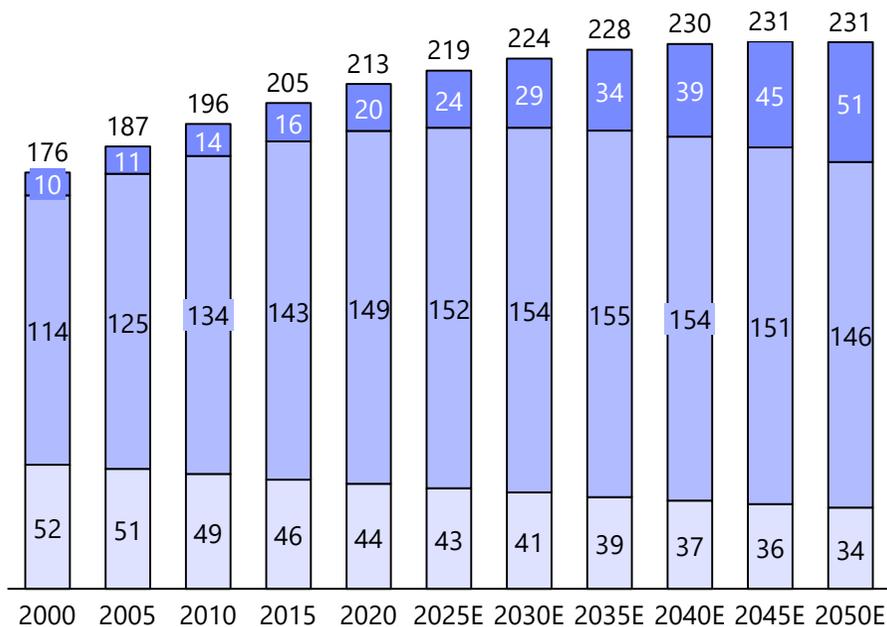
2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

ブラジルの人口は2030年には2.2億人に達すると予想されている。
所得構成では、中級以上とされるA・Bクラスの世帯が倍増。

- ブラジル市場において、Class A（富裕層）及びB（中間層）は、日本食レストランの顧客としてポテンシャルのあるグループとされている。Class Cは大衆的な店舗に限られるが、日本食レストランの顧客となり得るとされている。

年代別人口推移

(百万人)

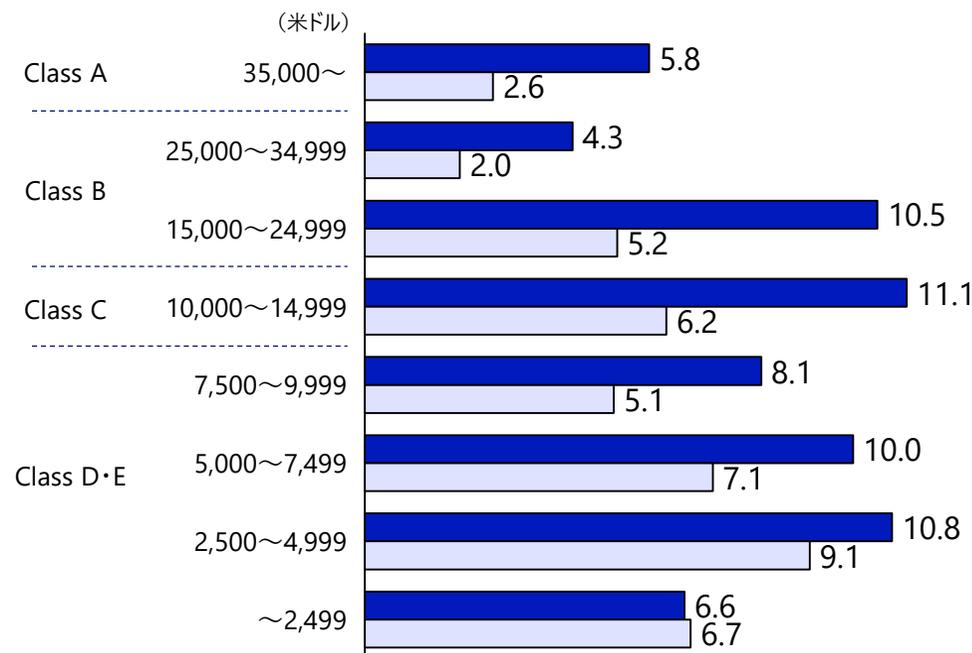


15歳未満 65歳以上
15~64歳

出所) United Nations

世帯所得分布の推移

(百万世帯)



2000 2021

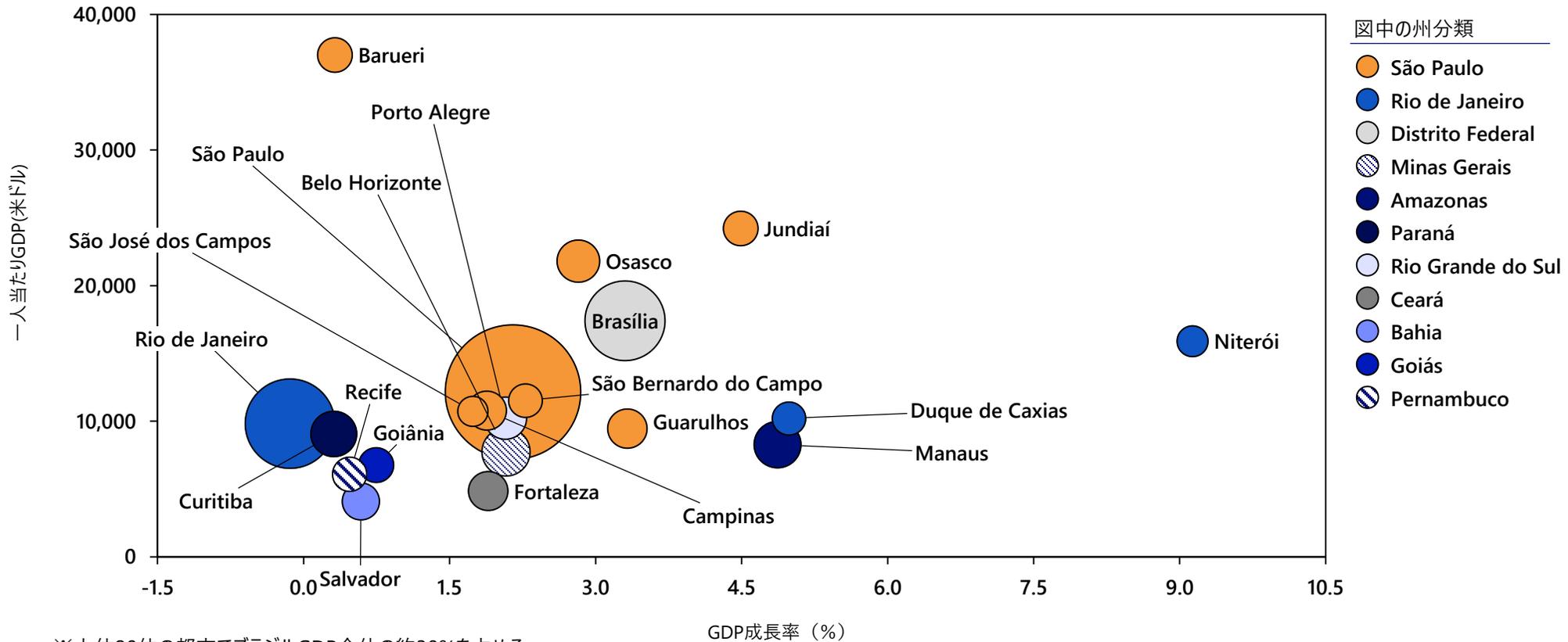
出所) ユーロモニター

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

サンパウロ州は、GDPの観点で市場ポテンシャルが最も高く、
州内では、一人当たりGDPの高い都市がいくつも存在する。

- Barueri（バルエリ）は、ウォルマートなど、大企業のブラジル本社が立地している都市。
- Jundiaí（ジュンディアイ）は、サンパウロのエコツーリズムを惹きつける農業・観光都市。
- Niterói（ニテロイ）は、リオデジャネイロ州で最も重要な金融・商業センターの一つ。

ブラジル国内GDP上位20位※の都市の一人当たりGDPとGDP成長率のマッピング（円の大きさは都市のGDPの大きさを表す）



※上位20位の都市でブラジルGDP全体の約30%を占める。

出所) IBGE (Brazilian Statistics Data)

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

2020年における日系人・在留日本人数は約190万人と推計（参考値）。
サンパウロ州における日系人数が最も多く、約73万人とブラジル日系人全体の約40%を占める。

	1980			2000			2020 (推計)		
	a)人口(全体)	b)日系人	c)割合 (b/a)	a)人口(全体)	b)日系人	c)割合 (b/a)	a)人口(全体)	b)日系人	c)割合 (b/a)
北部	3,216,257	21,077	0.7%	6,715,190	53,893	0.8%	9,981,846	89,452	0.9%
パラ州	3,403,498	21,069	0.6%	6,195,959	38,890	0.6%	8,690,745	54,980	0.6%
北東部	25,358,773	99,771	0.4%	34,696,719	146,124	0.4%	42,443,609	186,771	0.4%
バイア州	9,455,392	35,436	0.4%	13,085,762	78,023	0.6%	14,930,634	107,725	0.7%
南東部	15,403,443	26,710	0.2%	21,002,635	80,981	0.4%	25,356,718	159,722	0.6%
リオデジャネイロ州	11,291,631	21,822	0.2%	14,392,106	61,904	0.4%	17,366,189	139,279	0.8%
サンパウロ州	25,042,074	595,428	2.4%	37,035,456	676,134	1.8%	46,289,333	726,787	1.6%
南部	11,402,141	16,336	0.1%	15,545,711	35,364	0.2%	18,675,475	55,972	0.3%
パラナ州	7,629,849	105,334	1.4%	9,564,643	141,936	1.5%	11,516,840	181,373	1.6%
中西部	5,436,951	25,894	0.5%	9,560,599	65,567	0.7%	12,978,083	108,659	0.8%
南マット・グロッソ州	1,369,769	16,570	1.2%	2,078,073	29,677	1.4%	3,526,220	62,111	1.8%
合計	119,009,778	985,447	0.8%	169,872,853	1,408,493	0.8%	211,755,692	1,872,830	0.9%
							2020年時点の在留邦人数	49,689	
							総人口（日系・在留邦人）	1,922,519*	

備考



- ブラジルにおける日系人と在留邦人の合計は、2020年までに約190万人であり、2022年段階では約200万人と推定されている
- ブラジル総人口に占める日系人と在留邦人の割合は約1%
- サンパウロ州における日系人の人口（約73万人）はブラジル全体の約40%を占める

その他留意点

- ブラジルにおける日系人の人口は、学術研究の論文や各種報告書、ブラジル・日本研究センターなどでも、総人口は約200万人であると推定されている。なお、直近の国勢調査では、日系人を特定するような統計は公表されていない。
- 日系4世、5世等、厳密に人口を推計することは難しい。

*今回の推計にあたっては、Kaizo Iwakami Beltrao（ブラジル地理統計院統計化学大学教授）、Sonoe Sugahara（同統計院研究員）、近田亮平（地域研究センター副主任研究員）による論文「日系ブラジル人の特色の変化」を参照

出所）IBGE,「ラテン・アメリカレポート Vol. 25 No.2」*, NRIA Analysis

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

2026年に見込まれるブラジル最大の食品市場は、日本と同じく肉類。

- ブラジルの市場規模で上位10位の食料品目は、すべてプラス成長の見込み。一方で、日本では、マイナス成長のマーケットも存在している。

ブラジルの食品及び飲料関連商品上位10位（市場規模別）（米ドル）

順位	商品	市場規模 (百万米ドル)			CAGR (2008年- 2026年)
		2008年	2022年	2026年 (予測)	
1	肉	69,396	77,040	115,018	2.8%
2	果物	23,462	28,385	41,983	3.2%
3	パン、焼き菓子	19,128	24,952	38,747	4.0%
4	乳製品	21,328	22,853	33,235	2.4%
5	ビール	5,943	15,680	31,900	9.7%
6	野菜	11,282	15,538	24,710	4.4%
7	根菜類	7,102	10,311	16,062	4.6%
8	魚、海鮮	6,178	9,262	14,693	4.9%
9	炭酸飲料	8,070	9,325	13,738	3.0%
10	米、パスタ、麺類	6,730	8,403	11,742	3.1%

日本の食品及び飲料関連商品上位10位（市場規模別）（米ドル）

順位	商品	市場規模 (百万米ドル)			CAGR (2008年- 2026年)
		2008年	2022年	2026年 (予測)	
1	肉	35,093	37,120	47,467	1.6%
2	加工肉、加工 海鮮、代替肉	49,016	38,748	40,162	-1.1%
3	野菜	34,578	32,091	37,046	0.3%
4	パン、焼き菓子	29,454	24,515	27,077	-0.4%
5	インスタント食品、 スープ	19,330	22,428	25,189	1.4%
6	乳製品	19,066	20,070	20,964	0.5%
7	米、パスタ、麺類	24,464	17,541	18,116	-1.6%
8	ビール	23,096	19,072	17,426	-1.5%
9	ソース、調味料	19,952	16,314	17,147	-0.8%
10	お菓子 (セイボリー系)	12,053	13,945	15,546	1.4%

*2026年時点の順位

CAGR (Compound annual growth rate) : 年平均成長率

出所) ユーロモニター

出所) ユーロモニター

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

成長率が高い品目も日本とブラジルで異なる。ブラジルでは、エナジードリンクやインスタントティー、ビールなどドリンク関連が成長率の高い商品として上位にあがっている。

- ブラジルにおけるビールは、前頁で示した市場規模と、本頁の成長見込みが共に高い数値の商品である。

ブラジルの食品及び飲料関連商品上位10位（年平均成長率別）（%）

順位	商品	市場規模（百万米ドル）			CAGR (2008年- 2026年)
		2008年	2022年	2026年 (予測)	
1	エナジードリンク	149	809	1,867	15.0%
2	インスタントティー	128	610	1,075	12.5%
3	ビール	5,943	15,680	31,900	9.7%
4	インスタントコーヒー	1	3	5	9.1%
5	ボトルウォーター	1,492	3,735	5,508	7.5%
6	フルーツジュース	1,860	4,047	6,272	6.9%
7	スポーツドリンク	171	231	554	6.7%
8	インスタント食品、 スープ	1,058	2,092	3,044	6.0%
9	インスタントドリンク	207	349	559	5.6%
10	ワイン	2,060	2,926	5,377	5.4%

CAGR（Compound annual growth rate）：年平均成長率

出所）ユーロモニター

日本の食品及び飲料関連商品上位10位（年平均成長率別）（%）

順位	商品	市場規模（百万米ドル）			CAGR (2008年- 2026年)
		2008年	2022年	2026年 (予測)	
1	シリアル食品	272	744	869	6.6%
2	インスタントドリンク	2,094	5,585	6,481	6.4%
3	植物性乳製品	386	1,068	1,171	6.3%
4	サイダー（酒）	9	22	25	5.5%
5	ボトルウォーター	4,475	7,513	8,642	3.7%
6	食用油	1,048	1,635	1,945	3.5%
7	エナジードリンク	1,696	2,627	2,929	3.0%
8	ナッツ類	255	339	423	2.8%
9	アイスクリーム	5,209	6,638	7,270	1.8%
10	加工果物、 加工野菜	1,958	2,363	2,731	1.8%

出所）ユーロモニター

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

ブラジルでは、国産品、輸入品共に様々な価格帯の商品が展開されている。

ブラジルの食品及び飲料関連商品上位10位の、ブラジル市場における価格帯（国産・輸入）

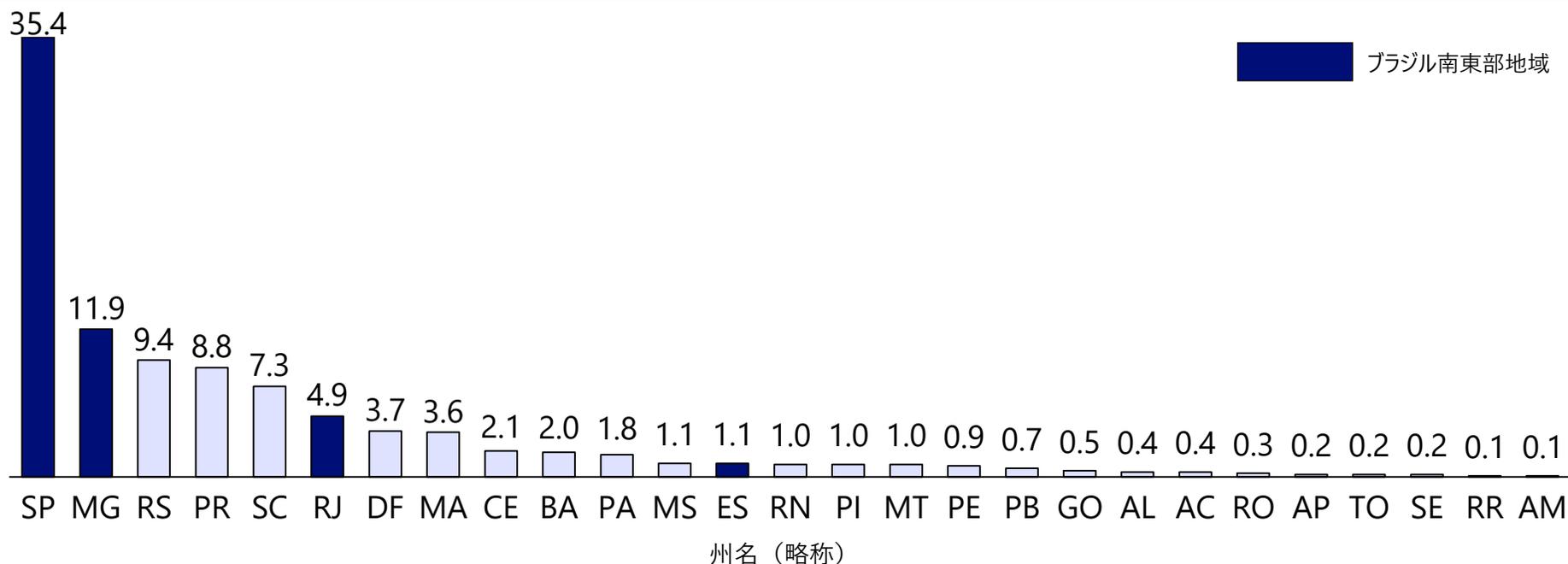
	品目	ブラジルスーパー平均価格(米ドル)		
		国内産	輸入品	単位
1	肉	\$5-\$25	\$7-\$25	Kg
2	果物	\$0.5-\$5	\$4-\$50	Kg
3	パン、焼き菓子	\$6-\$12	\$6-\$15	Kg
4	乳製品	\$1.5-\$8	\$1.5-\$10	L
5	ビール	\$0.6-\$1.8	\$1-\$5.5	350 ml 缶
6	野菜	\$0.5-1.2	N/A*	Kg
7	根菜類	\$0.6-\$1.8	\$0.6-\$1.8	Kg
8	魚、海鮮	\$7-25	\$7-\$40	Kg
9	炭酸飲料	\$0.3-\$1	\$1-\$2.5	350 ml 缶
10	米、パスタ、麺類	\$1.5-\$3	\$1.5-\$6	Kg

*輸入野菜は確認できなかった

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

ブラジルでは、小売業の主要市場はサンパウロ州であり、南東部地域を構成するミナス・ジェライス州、リオ・デ・ジャネイロ州、エスピリト・サント州を合わせた市場規模は国全体の半数を超える。

ブラジルにおける州別の小売業売上シェア（2021）（%）



州名

Sao Paulo (SP), Minas Gerais (MG), Rio Grande do Sul (RS), Parana (PR), Santa Catarina (SC), Rio de Janeiro (RJ), Distrito Federal (DF), Maranhao (MA), Ceara (CE), Bahia (BA), Para (PA), Mato Grosso do Sul (MS), Espirito Santo (ES), Rio Grande do Norte (RN), Piau (PI), Mato Grosso (MT), Pernambuco (PE), Paraiba (PB), Goias (GO), Alagoas (AL), Acre (AC), Rondonia (RO), Amapa (AP), Tocantins (TO), Sergipe (SE), Roraima (RR), Amazonas (AM).

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

輸入日本食品を扱う専門店等も存在するが、
小売全体では外資大手や現地小売チェーン店の浸透度が高い。

- Carrefourに加え、小売大手の2位のAssaiや3位のGrupo Pao de Acucar, DMA Distribuidora等は、フランス系小売の資本が投入されている。
- 大手小売でも日本食品を扱うが、多くはブラジル国産の日本食品である模様。

ブラジル現地の主要小売店（上位10位）（2021）

会社名	本社所在地	売上 (億米ドル)	シェア (%)	店舗 数
 Carrefour	Sao Paulo	150	13.3	548
 Assai	Sao Paulo	84	7.5	212
 Grupo Pao de Acucar	Sao Paulo	54	4.7	809
 Grupo Mateus	Maranhao	33	2.9	202
 Supermercados BH	Minas Gerais	21	1.8	243
 Grupo Muffato	Parana	20	1.7	80
 SDB Comercio	Sao Paulo	18	1.6	75
 Cencosud	Sao Paulo	17	1.5	202
 DMA Distribuidora	Minas Gerais	12	1.1	180
 Companhia Zaffari	Rio Grande do Sul	12	1.0	38

輸入日本食材を扱う主な小売店

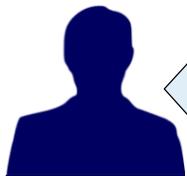
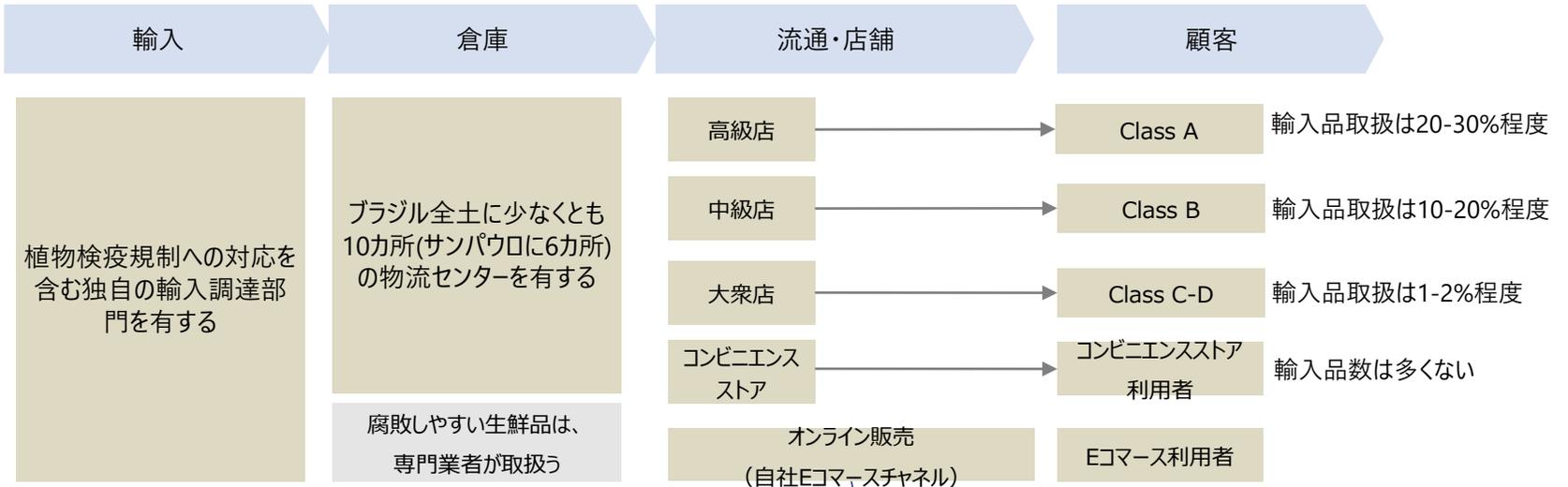
店舗名	備考
Casa Santa Luzia	高級スーパー、輸入品を多く扱い、日本製品も散見される、Eコマース店舗も展開
Marukai	サンパウロ市内で最も日本食品店が集中しているリベルダーデ地区に立地する日本食材専門店、自社輸入も実施。コンビニの2-3倍ほどの規模で展開
Casa Bueno	
HIROTA	日本からの輸入食品も扱うスーパーマーケットに加え、コンビニタイプの店舗など、約40店舗以上*の店舗を展開、Eコマース店舗も展開
Shibata Supermercados	サンパウロ市外を中心にスーパーマーケットを計28店舗展開。スーパーマーケット以外にも、ホーム&ギフト店なども展開、Eコマース店舗も展開

*農林水産省「海外における日本産食材サポーター店舗一覧（小売店）」に掲載されている店舗数

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

参考) ある大手小売店では、独自の物流倉庫を持ち、嗜好や購買力の異なるターゲット顧客に対応するため、4種類の店舗とオンライン販売チャネルで展開している。

現地小売店の流通構造（現地小売店Aのケース）



現地小売店A

ブラジルでは、現在、ほとんどのスーパーマーケットがEコマース、大型小売店、コンビニエンスストア、デリバリーに注力している。

COVID-19の流行以降、A社のオンライン販売は60%増加し、複数の配送業者と提携し、Eコマースチャネルを構築

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

参考) 日本食品を現地小売店へ展開していくためには、
価格や品質に加えて、プロモーションや店員教育へのコミットメントが求められる可能性がある。

輸入品の調達に対する現地小売店の考え方

輸入食品調達時に考慮するポイント：

- 【価格】ターゲット顧客の価格帯に確実にマッチしていること
- 【品質】品質が安定していること、利便性（惣菜等）
- 【プロモーション】テレビ、SNSなどのマーケティングチャネルを活用した商品紹介
- 【店員教育へのコミット】購入客に新商品を紹介・説明する店員の教育

当社はフランス資本であるため、クッキーや焼き菓子など、輸入品の大半はフランスから輸入される。（他の輸入品の調達については、価格やターゲットが明確であれば調達可能性はある）。



現地小売店A

日本食品の輸入販売促進のためには、小売店に対し、ターゲット顧客を明確にするだけでなく、その商品の収益性も合わせて提示する必要がある。また、賞味期限や想定されるマージンなども考慮する必要がある。



現地小売店B

2. ブラジルにおける農林水産物・食品等の流通実態 | 2-1. 市場概況

参考) 緑茶、パックご飯、米菓に関するトレンド等

ブラジルにおける緑茶、パックご飯、米菓に関するトレンド等と販売チャネルの概況

	緑茶	パックご飯	米菓
当該品目に関するトレンド等	<ul style="list-style-type: none"> ブラジルはコーヒーの生産・輸出大国であり、国内消費も多い。 近年は、「テマケリア」と呼ばれる手巻き寿司店で緑茶が提供されることもあり、以前に比べて、ブラジル人が緑茶に触れる機会が増えてきている。 こうしたことから、近年、緑茶に対する関心も高まっており、緑茶の消費量も増加している。日本人社会が発達しているブラジルでは現地産の緑茶は昔からあるが、最近では、緑茶の楽しみ方も多様化してきている。水やお湯に溶かして飲む粉末状や顆粒状のインスタント緑茶も増加している。これらは、飲むだけでなくお菓子の風味付けとしても利用される。 また、健康志向の高まりによって、緑茶は一層注目されてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ブラジルでは、米（長粒米）を主食としており、ほとんどの人が毎日1～2回、豆と共に食している。 小売店では寿司と並んでおにぎりや、おにぎりを作る容器なども売れているといい、日本式の米の食べ方の広がりが見える。 現状、パックご飯は、主に日本人駐在員等が購入している。 2019年には、サンパウロ日本祭り等において、パックご飯を活用したおにぎりづくりなどのプロモーションイベントが実施され、現地ブラジル人からも好評を得ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ブラジルでは、チョコレートやビスケット、アイスクリームなど、甘いお菓子を老若男女問わずよく食べ、ポテトチップスなどのスナック菓子も人気。 せんべいやあられなどは米菓は、これまで食べなれてきた菓子とは全く異なる食感、味付けの菓子となっている。 柿の種、あられ等が売れ筋商品となっており、特に若者が購入している。硬い、醤油などの昔ながらのせんべいはあまり売れず、砂糖を使ったもの、チーズ味などのバリエーションが好まれる。 近年は、ポテトチップスなどのカロリー、油分を気にするブラジル人が米菓を嗜好する兆候も見られ、グルテンフリーなど健康志向も高まってきている。 2022年に実施されたパネル調査では、米菓（あられ）等はほとんど認知されていなかったものの、試食結果は好評であり、現地価格よりも高い価格でも購入を希望する者もいた。
販売チャネル	<ul style="list-style-type: none"> 主に日系・アジア系の食材専門店だけでなく、現地小売店でも広く販売されている。 	<ul style="list-style-type: none"> パックご飯は主に日系・アジア系の食材専門店を通じて店頭販売されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に日系・アジア系の食材専門店を通じて店頭販売されている。少数ではあるが、現地産の類似製品が現地小売店で販売されているケースも存在。